

「困っている人を支援できる社会福祉士になりたい」

入門先：富山国際大学 呉羽キャンパス
社会福祉法人フォーレスト八尾会 おわらの里
日 時：令和4年8月 9日（火） 10：00～12：00
8月10日（水） 10：00～11：30
講 師：富山国際大学 村上 教授
フォーレスト八尾会おわらの里 理事 島滝さん

はじめに

今回の短期入門では、私の病気を考慮していただき身体に負担がかからないよう、2日間にわたっての短期入門をさせていただきました。1日目に富山国際大学 呉羽キャンパスの村上教授から社会福祉士という仕事の魅力について講義を受け、実際に社会福祉士を目指すお二方とお話をさせていただきました。2日目は社会福祉法人フォーレスト八尾会 おわらの里の島滝さんから施設についての説明と見学をさせていただき、食用花のパック詰め体験や利用者の方とお話をさせていただきました。

1日目 富山国際大学 呉羽キャンパス

・社会福祉士についての講義

<社会福祉士とは>

子供から高齢者の方まで医療、福祉、教育、行政機関等で日常生活を営むのに問題がある人からの相談に対して助言や指導、援助を行う専門職。

<社会福祉士が働く職場>

行政機関や色々な福祉施設、病院等と幅広い。

<子供を取り巻く”あんぼんたん”問題>

○安心・安全を脅かす問題が起きていませんか？

⇒家庭や地域でのつながりづくり

○本音を言い合える人間関係になっていますか？

⇒本心・本当の場づくり

○単純（短期に解決 NG）じゃない、複雑な問題が増えていませんか？
⇒みんなが資源・みんなで支援の場づくり



写真：村上教授の講義



写真：質問に丁寧に答えてくださる教授

・村上教授の講義を受けて

村上教授が、障がい者を「障害者」と書くが、人に害を与えていないので「がい」と使っていくべきと話されていた事に共感し、自分もそうしたいと思いました。教授が社会福祉士になった経緯の話にはとても心が温まりました。困っている人や悩んでいる人がいるときは相手の立場になり一緒に考える事の大切さも学び、そして自分の夢を叶えるためには、社会福祉士だけでなく他の資格も取得したい。

自分が思うより社会福祉士が活躍できる場所は広く、そして自分の経験を活かし人の為に役立てるように学んでいこうと今まで以上に思えることができました。

・社会福祉士を目指す学生の方との懇談

福祉を学ぶ学生である F さんと S さんのお二人にお話を聞かせていただきました。F さんは学校の教師として働きながら社会福祉士としても仕事をしたいとおっしゃっており、S さんは病院で社会福祉士の仕事をしたいとおっしゃっていました。働いている学校で社会福祉士としてカウンセリングの仕事をしたり、病院で社会福祉士として困っている人相談にのったりと、ひとことに社会福祉士といっても色々な仕事の仕方があります。

社会福祉士を目指すにあたって勉強しておいたほうが良いことを訪ねた時には、実際の現場では知識のみでは足りないことが多いため何か一つを勉強するのではなくて様々な分野の知識を身につけることが大切と教えていただきました。



写真：お話を聞かせていただいた F さんと S さん



写真：お世話になった皆さんとの集合写真

2日目 社会福祉法人フォーレスト八尾会 おわらの里

・おわらの里について

おわらの里は障がい者の方が暮らす場所ではなく、働く場所です。おわらの里ができる前までは八尾町には障がい者のための施設が二つありました。そのどちらも障がい者の方が暮らすための施設でしたが、正月やお盆には帰りたい、家族と暮らしたいという利用者の方も多くおられました。そのために、障がい者の方が家で家族と暮らしながら働けるような施設としておわらの里が作られました。



写真：おわらの里について教えてくださった島滝さん

・島滝さんのおはなしを聞いて

島滝さんがこの場所で、一緒に共感しながら生きていくことがやりがいにつながると話していたのが印象的です。長所を活かして支え合い生きていく。こんな場所があって良いなと思いました。同時に、もっと他にも色々な人が生活しやすい社会づくりが大切だと気づきました。

・職業体験

食用花とベビーリーフのパック詰めを体験させていただきました。利用者の方が実際にされている仕事ということで、身体の不自由な方でもできるような内容になっており、施設の方の工夫を感じました。

写真：食用花のパック詰め体験



・利用者さんとの懇談

おわらの里では自分が不得意なことも助け合いながら仕事ができるためとても助かっているということや、同じ利用者さんと話をすることが楽しい時間となっているといったお話を聞くことができました。難病や障がいがあってもきちんと自分ができることを探して、前を向いて生活しているお話を聞き、自分もそうありたいと感じました。



左写真：利用者の方とのお話



右写真：お世話になった皆さんとの写真

さいごに

「福祉は人なり。」この言葉が頭に残っています。

そして今回の入門で皆さんが自信に満ち溢れた表情で楽しく教えたり、学んだり、実践されていた事が印象的です。互いに敬い、信頼できる関係性がやりがいや喜びにつながるものになるのかもしれないと思いました。

この2日間、貴重な体験をさせていただいたことで、自分の夢に向かって前へ進んでいこうという気持ちがよりいっそう強くなりました。市役所や児童相談所などで、社会福祉士として私と同じような境遇の子供の支援を行うために、しっかり学び前に進んでいきたいです。